



令和8年度

岐阜県小中学校音楽科研究部会 研究内容



【研究主題】

楽しさと確かさの中に美しさを求める子をめざして
～子どもの可能性を引き出す音楽科の授業～

【願う児童生徒の姿】

- ・ 学習を生活の中の音楽と結び付けてさらに味わう子
- ・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、その働きのよさを感じながら追求する子
- ・ 感受したことを音楽表現したり仲間と伝え合ったりする子
- ・ 学びを振り返り、高まりを実感したり次の学びに生かしたりする子

【研究の視点】

- (1)生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる
資質・能力を育むための指導計画の工夫
- (2)個別最適な学びと協働的な学びを
効果的に位置付ける学習過程の工夫
- (3)指導と評価の工夫

視点Ⅰ

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画の工夫

- ・ 9年間の学びのつながりや、他題材とのつながり、他教科とのつながり等、学びの連続性や系統性を意識し、領域や分野の配列を工夫する。
- ・ 実態に応じて題材で扱う〔共通事項〕を適切に位置付けた指導計画を作成する。
- ・ 授業で学んだことが生活や社会とどのように関わり、どのような意味や価値をもつかといった意識を向けることができる場を指導の過程に位置付ける。

視点Ⅰ

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画の工夫

1年 2年 3年 4年 5年 6年 中1 中2 中3 …

4月

5月

6月

7月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

本題材でどのような資質・能力を
身に付け、その後の学びに
どのように活かされていくか？

教師も児童生徒も見通しを共有する。

視点 I

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画の工夫

【実践例 I】小学校6年生：日本や世界の音楽に親しもう 「雅楽『越天楽』」

【これまでの学び】

わらべうた・お囃子・

箏・民謡等

→ 楽器の音色や旋律の感じ

【地域の伝統的な祭り】

お囃子・雅楽

→ 日本の音楽の雰囲気

【第6学年】

「越天楽今様」

雅楽「越天楽」

→ ゆったりとした

優雅な旋律

中学校へ

視点 I

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画の工夫

- ・ 9年間の学びのつながりや、他題材とのつながり、他教科とのつながり等、学びの連続性や系統性を意識し、領域や分野の配列を工夫する。
- ・ 実態に応じて題材で扱う〔共通事項〕を適切に位置付けた指導計画を作成する。
- ・ 授業で学んだことが生活や社会とどのように関わり、どのような意味や価値をもつかといった意識を向けることができる場を指導の過程に位置付ける。

【実践例1】小学校6年生：日本や世界の音楽に親しもう「雅楽『越天楽』」

5 指導と評価の計画(全4時)

時	◆ねらい ○学習内容・学習活動	知・技	思	態
		【 】内は評価方法		
1	◆「越天楽」の曲の特徴を見付けて歌う。 ○「越天楽」の曲の特徴を見付けて歌う。 ・曲の雰囲気に合わせて、歌詞の内容を理解し、越天楽今様の雰囲気を感じ取りながら、その曲の特徴を見付けて歌う。	【演奏聴取】 知・技①	【ワークシート】 ①	
2	◆旋律と拍や音色等を関わらせながら雅楽「越天楽」を聴く活動を通して、雅楽「越天楽」の特徴を感じ取り、曲の雰囲気を感じ取りながら、その曲の特徴を見付けて歌う。 ○「越天楽」の曲の特徴を見付けて歌う。 ・曲の雰囲気に合わせて、歌詞の内容を理解し、越天楽今様の雰囲気を感じ取りながら、その曲の特徴を見付けて歌う。	【ワークシート】 知②	【ワークシート】 ②	
3	◆様々な国の音楽を聴く活動を通して、様々な国の音楽の特徴やよさを比べながら、よさを味わって聴く。 ○「越天楽」の曲の特徴を見付けて歌う。 ・曲の雰囲気に合わせて、歌詞の内容を理解し、越天楽今様の雰囲気を感じ取りながら、その曲の特徴を見付けて歌う。	【ワークシート】 知③		
4	◆様々な国の音楽の特徴や雰囲気の違いを比べることで、実際に音楽を聴いて確かめたり、口ずさんだりして、様々な国の音楽のよさを味わって聴くことができる。 ○「越天楽」の曲の特徴を見付けて歌う。 ・曲の雰囲気に合わせて、歌詞の内容を理解し、越天楽今様の雰囲気を感じ取りながら、その曲の特徴を見付けて歌う。		【ワークシート】 ③	【行動観察】 ①

旋律

旋律

旋律

旋律

児童の思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素
「旋律」

視点Ⅰ

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画の工夫

- ・ 9年間の学びのつながりや、他題材とのつながり、他教科とのつながり等、学びの連続性や系統性を意識し、領域や分野の配列を工夫する。
- ・ 実態に応じて題材で扱う〔共通事項〕を適切に位置付けた指導計画を作成する。
- ・ 授業で学んだことが生活や社会とどのように関わり、どのような意味や価値をもつかといった意識を向けることができる場を指導の過程に位置付ける。

視点 I

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導計画の工夫

【実践例 I】小学校6年生：日本や世界の音楽に親しもう 「雅楽『越天楽』」

資料の提示・授業の中で想起できる言葉かけ

【これまでの学び】

わらべうた・お囃子・箏・民謡等

→ 楽器の音色や旋律の感じ

【地域の伝統的な祭り】

お囃子・雅楽

→ 日本の音楽の雰囲気

【第6学年】

「越天楽今様」
「雅楽『越天楽』」

→ ゆったりとした
優雅な旋律

世界の国々の音楽

→ 旋律の感じや

音色について

日本の音楽との

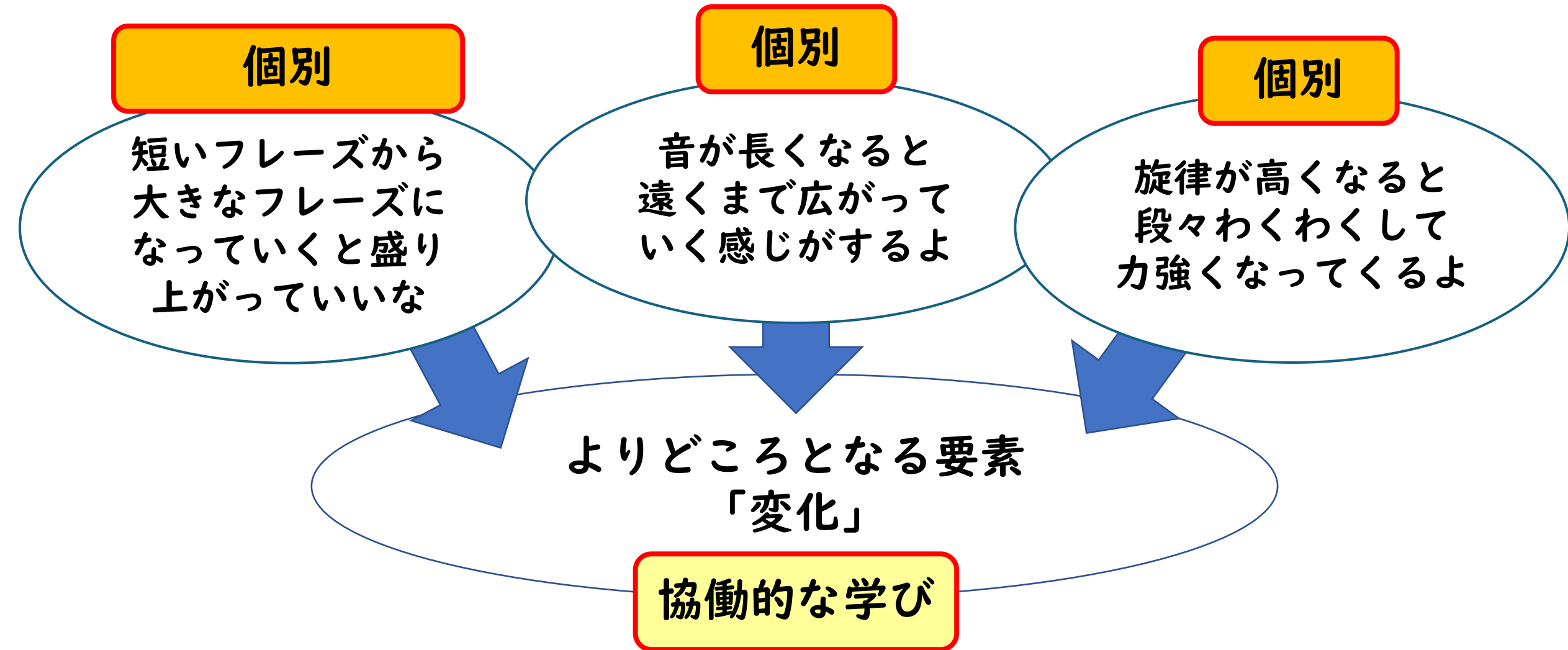
共通点や相違点

視点 2 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける学習過程の工夫

- ・音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや願いをもち、どのように学ぶか自己決定する場を位置付ける。
- ・仲間や教師と対話し、学びを深める場を設定する。
- ・一人一人に応じた学習活動や学習環境を設定し、自ら学習を調整しながら学びを深めていく学習過程を工夫する。

視点2 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける学習過程の工夫

【実践例2】小学校6年生：曲想の変化を楽しもう「思い出のメロディー」



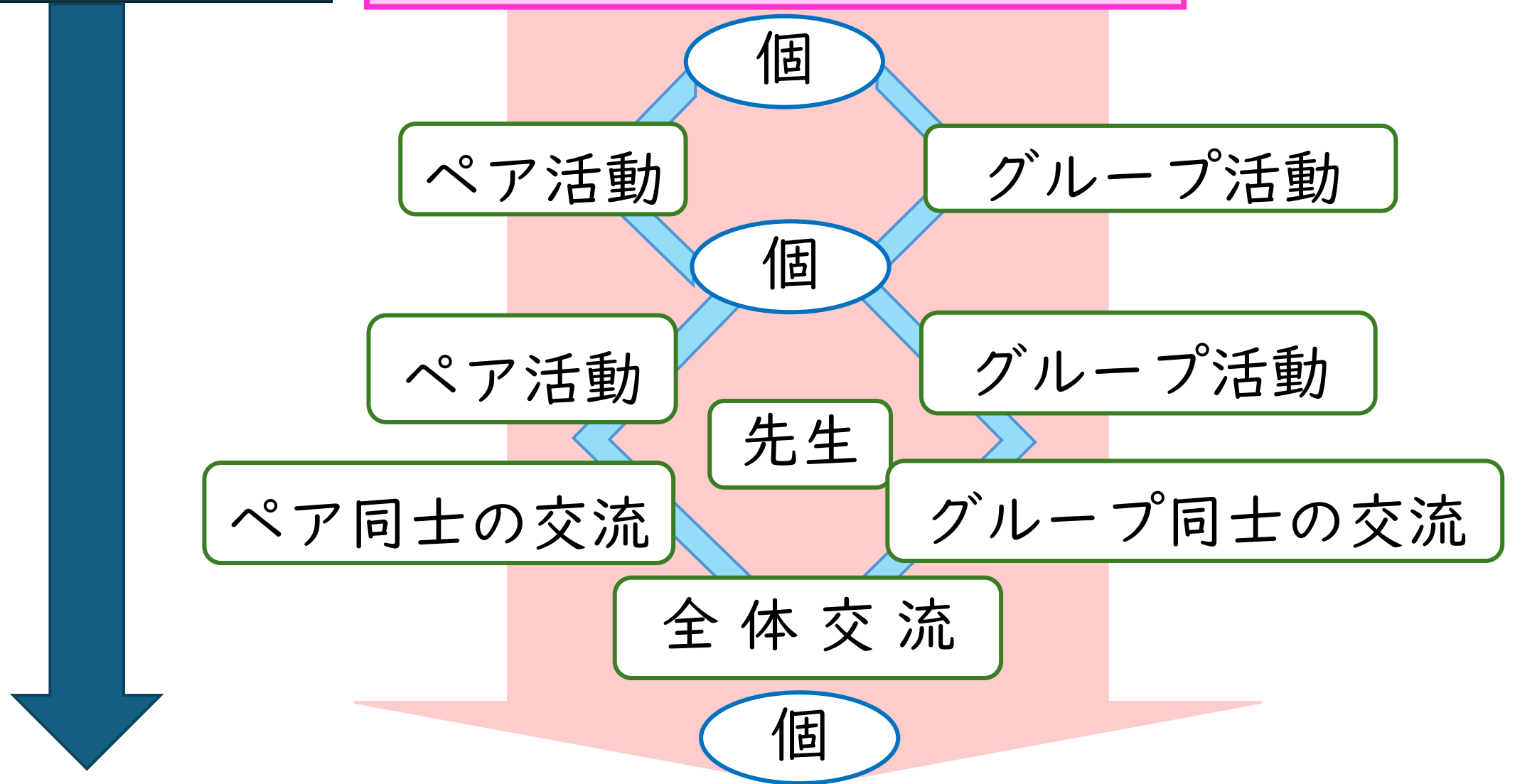
視点2 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける学習過程の工夫

- ・音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや願いをもち、どのように学ぶか自己決定する場を位置付ける。
- ・仲間や教師と対話し、学びを深める場を設定する。
- ・一人一人に応じた学習活動や学習環境を設定し、自ら学習を調整しながら学びを深めていく学習過程を工夫する。

視点2 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける学習過程の工夫

本時の学習過程

音楽を形づくっている要素



視点2 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける学習過程の工夫

【実践例3】中学校3年生
音色を生かしてボーディーパーカッションアンサンブルをつくろう「Let's Create!」



① 一人で
四分の四拍子
8小節の
リズムをつくる



② ペアで
リズムを重ねて
構成を工夫する



③ 一人で
音色を工夫する



④ ペアで
音色を工夫する



⑤ 他のペアと
交流し
音色を再考する

共有したイメージをもとに、まとまりのあるアンサンブルをつくる

視点2 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける学習過程の工夫

【実践例4】

小学校5年生：日本の音楽に親しもう 「ソーラン節」／「かりぼし切り歌」

【ソーラン節】

同じ旋律を繰り返し歌うところが多くて、「ハイハイ」というかけ声もあって、大勢の人が声を揃えやすいな。

とても力強い感じがするな。

自己選択

歌に合わせて動いてみよう。
みんなで一緒に歌ってみよう。

比較

【かりぼし切り歌】

歌う人が旋律を自由に伸ばしたり縮めたりしていて、ゆったりと歌っているな。

旋律の動きもなめらかで、のんびりとした動きに合うな。

自己選択

旋律線をなぞってみよう。
音源に合わせて歌ってみよう。

視点3 指導と評価の工夫

- ・ 何ができるようになったか、どのようにしてできるようになったかという学びの高まりを言語化する場を位置付ける。
- ・ あらかじめ学びの高まりを自覚する振り返りを具体的に想定しておく。
- ・ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の資質・能力の習得状況について判断し、支援のための複数の手立てを準備する。

視点3 指導と評価の工夫

【実践例5】中学校3年生

曲の背景と曲想との関わりを理解し、音楽表現のよさを味わおう 「花の街」

「花の街」に込められた願いが伝わる歌い方を考えて歌おう。

<教師>

あらかじめ
児童生徒の出口の姿を
具体的に想定しておく。
→見通しをもって指導

○「花の街」の背景と曲想との関わりを
合わせながら、曲の背景と曲想との関わり
がより深く理解できるように指導する。

○「花の街」を歌い、学びの振り返りを確認する。
○本時の学びを振り返り、学びをまとめる。

この曲が作られた戦後の人々の思いや歌詞に込められた作者の願いと旋律の特徴を関わせながら歌っていくと、前時までの捉えとは違う新たな視点で表現の工夫を行うことができた。自分は特に「輪になって・・・」の部分にこだわって、1番は上行していく旋律を希望の高まりと捉えて、明るい響きで一気に cresc. するように歌い、3番は人々の寂しい思いが膨らんでいくようなイメージで悲しげにゆっくりと cresc. するようにして歌った。

<生徒>

学んだことと、
学びの過程を振り返り、
言語化する。
→学びの高まりの実感

・本時の工夫の視点（旋律の特徴と関係性）

・曲の背景と曲想との関わりやよさの捉えの深まりにつながることを意識できるように、授業はじめと終わりの演奏を比較し、復習として願いと絡めて本時の表現を評価する。
・曲の背景や作者の願いを理解することが音楽表現の深まりにつながることを実感できるようにする。

視点3 指導と評価の工夫

- ・ 何ができるようになったか、どのようにしてできるようになったかという学びの高まりを言語化する場を位置付ける。
- ・ あらかじめ学びの高まりを自覚する振り返りを具体的に想定しておく。
- ・ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の資質・能力の習得状況について判断し、支援のための複数の手立てを準備する。

視点3 指導と評価の工夫

【実践例6】

中学校3年生：日本の伝統的な総合芸術に親しもう 能「敦盛」

7 本時の評価の進め方

【評価規準】

「能」の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気に関わりについて考えるとともに、「歌舞伎」や「能」の音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

本時の評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）

「十分満足できる」状況（A）の例

○「十分満足できる」状況（A）の例

・発声や奏法による音色の違いを感じ取り、表現の広がりや、響きの変化に気付いて個人追求している。

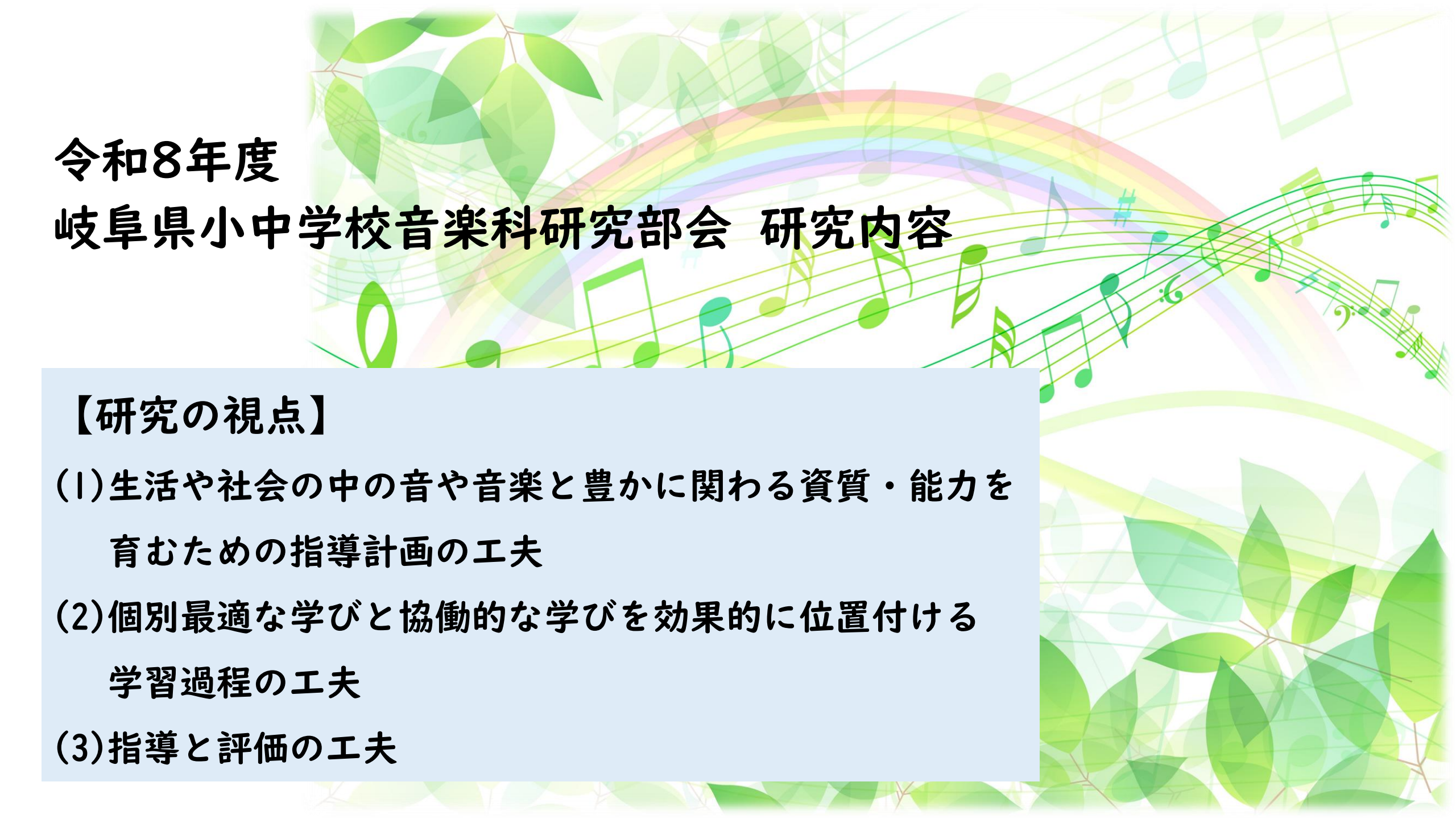
○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

・歌舞伎に関わる既習内容について、複数の意見が記されたワークにする。自分なりの気付きや考えをもてるように、同じ視点で他

・個人に合わせた働きかけを行う。複数の視点から評価する点を繋げ

努力を要する状況（C）と判断され
そうな児童生徒への働きかけの例
→複数想定する

指導の見通し・的確な見取り
⇔指導改善



令和8年度 岐阜県小中学校音楽科研究部会 研究内容

【研究の視点】

- (1)生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を
育むための指導計画の工夫
- (2)個別最適な学びと協働的な学びを効果的に位置付ける
学習過程の工夫
- (3)指導と評価の工夫